



創立50周年を祝して

八戸水産加工業協同組合連合会

代表理事会長 福島 哲 男

青森県ふるさと食品研究センターの創立50周年を心からお祝い申し上げます。

昭和31年、水産加工専門の試験研究機関として、青森県水産試験場の製造部から分離独立し八戸市に開設されました青森県水産物加工研究所の創設は、当時、スルメイカの大量水揚げが続き大漁貧乏に喘ぐ船主と、その処理に窮する加工業者にとりまして、誠に時宜に適った待望の機関の設置でありました。

以来、貴所は青森県ふるさと食品研究センターに名称変更の今日まで、本県水産加工の振興発展のために地域に密着した課題を取り上げ、新製品の開発及び改良試験に熱心に取り組まれ、その数々の研究成果をもとに加工業者の指導育成に貢献され、本県が全国有数の水産加工品の生産地としての地位を確立する礎を築かれました。

ここにあらためて、その職務に携わってこられました歴代職員の皆様のご努力ご尽力に対し深く敬意を表すとともに、衷心より感謝申し上げます。

振り返りますと、冷蔵庫等の保存設備の乏しい当時は、水揚げされる魚の円滑な流通と付加価値の増大及び魚価の安定が緊急の課題でありました。その状況の克服には、貯蔵保管設備の拡充とともに、加工品の生産増大が不可欠な課題でした。貴所は、機械設備の活用促進や従来製品の改良研究に始まり、高度な知識を駆使した加工技術によって幾多の新製品を開発し、その研究は廃水処理技術開発にまで及びました。営々と重ねられたその成果は、本県、特に八戸港の水揚げの増大に寄与し、全国屈指の漁港として発展する原動力に結びついたものと感謝致しております。

最近の水産加工品の供給環境は、国内外品との競争が激しく、特に価格競争が熾烈を極める状況が年々深刻さを増しております。また、加えて多様な商品の供給を望まれる傾向が一層高まっていることから、先端技術並びに先進機械設備を用いた新たな加工品の開発がこれからの課題になると思われ、貴所への期待は更に高まるものと思われまます。

栄えある50周年を契機に、今後も試験研究を積み重ねられ、本県水産加工業の発展にご尽力賜りますようお願い申し上げます、お祝いの言葉と致します。